

第4節 沼田城整備の歴史

第1項 文献史料から見た沼田城整備の歴史と画期

沼田城に関する文献史料の集成を第7章で行った。本節では真田氏による沼田城の築城や増改築、修復に関わる記事について再度整理し（表31）、真田氏による沼田城整備を大きく3期に分けて整理した。

（1）第1期整備 天正期整備

真田氏による沼田城整備は、天正9（1581）年に武田勝頼によって真田昌幸に沼田城普請が命じられたことに始まる（史料32）。同11年から同16年にかけて本丸はじめ二の丸、三の丸が整備され（史料33）、同17年には奥御殿が出来上がっている（史料34）。ここまでで沼田城中心部が整いつつあったと見ることができる。しかし同年沼田城は北条氏に渡り、翌18年、いわゆる名胡桃城事件の結果沼田城が真田氏に返還されるまでの間に北条氏による沼田城普請が行われた可能性がある。天正9年から同17年までの沼田城が北条氏へ渡るまでの整備を真田氏による沼田城第1期整備（天正期整備）と捉えることができる。

（2）第2期整備 慶長期整備

北条氏滅亡による真田氏への沼田城返還後の慶長元（1596）年2月に天守普請が始まり、翌2年2月に竣工している（史料47）。さらに同9年西の三階櫓、水の手門が完成し、慶長17年には三・四の丸を整備し大手枡形・惣堀を掘っている（史料51）。天正期の整備部分の周辺にさらに整備の手を広げ、大手枡形と惣堀を掘削することで沼田城は近世城郭として完成された。沼田城が北条氏から真田氏へ返還され、近世城郭として完成される整備を第2期整備（慶長期整備）と捉える。

（3）第3期整備 万治・寛文期整備

万治元（1658）年から、前年に襲封した5代信直（信利）によって大規模な改修が実施された。本丸地形嵩上げをはじめ天守等本丸内の主要施設、堀、石垣、二の丸、三の丸、二・三・四の門と普請が続いた（史料53・54・56）。また、寛文8年（1668）に堤を普請、同10年（1670）に本丸内に十人番所が建てられ、延宝6（1678）年には大門・三ノ門・溜門の橋が架け替えられた。信直による特に万治元（1658）年から寛文年間の大規模改修を第3期整備（万治・寛文期整備）と捉えることができる。

真田氏による第1期から第2期整備によって、沼田城は近世城郭として完成した。その間北条氏による普請が行われている可能性があることに注意したい。また、文禄3（1594）年、信之は父昌幸、弟信繁とともに京都伏見城の普請を行っており、その経験が第2期整備に反映されているであろうことも想像できる。さらに正保元年（1644年）に作成が命じられた「正保城絵図 上野国沼田城絵図」に描かれている沼田城は、この第2期整備による沼田城の姿と言える。第3期整備により大規模な改修が行われ、沼田城の最終段階の姿はおよそこの整備によるものと考えられる。発掘調査によって検出した破城時の地表面や柱穴もこの第3期整備以降のものと考えられる。

第2項 真田氏による沼田城整備と整地面の関係

本丸跡では標高412.8m（整地面1）、411.0m（整地面2）の2面の整地面を確認した。整地面1は破城時に機能していた面であることから第3期整備（万治・寛文期整備）による面とすることができ、それを遡る整地面2は第2期整備（慶長期整備）による面とすることができる。

天守推定地3トレンチでは413.9m（整地面1）、413.0m（整地面2）、412.5m（整地面3）の3面を確認した。整地面1を形成する整地層1からは、17世紀初頭～前葉の瓦のみが出土することから、この整地が17世紀前葉より後に行われたことがわかり、第3期整備（万治・寛文期整備）による整地面とすることができる。天守推定地2トレンチで確認した整地層1もこれに該当するものと考えられる。これを遡る整地面2は第2期整備（慶長期整備）による面で、天守推定地2トレンチで確認した整地面2もこれに該当すると考えられる。さらに遡る整地面3は、情報が少なく不確定であるが、第1期整備（天正期整備）もしくは第2期整備（慶長期整備）と考えられる。

天守推定地3トレンチで確認した慶長期整地層は、固く叩き締めた粘質土が積み重ねられ強固なうえ、礎石は小礫による根固めを行うなど丁寧な整備が行われている。慶長期整備は伏見城普請で得た知見が持ち込まれていることが推測でき、最新の技術による丁寧な整備が行われていることが窺える。

一方、万治・寛文期整地層は、瓦を含む礫層と厚い粘質土層によって構成されており、締め固めが不十分である。礎石は根固めを行わず掘方内に粘質土とともに設置されている。本丸跡の発掘調査で確認したⅢ層とした万治・寛文期整地も礫を多く含み、地中レーダー探査でもやはり礫を含むと考えられる強い反応が厚く観察された。このことから万治・寛文期整備が丁寧な整備よりも本丸内の地形を高く上げることを強く志向していると考えられる。

第31表 真田氏による沼田城の普請と作事

年号	西暦	月日	普請と作事の記事	主な出来事	第7章史料番号	備考
享禄3年	1530			沼田顕泰、白沢用水・沼田城構築に着手する	上毛沼田伝記全（高橋安治家）	
天文元年	1532			沼田顕泰、幕岩城から沼田城へ	沼田記事（内閣文庫）ほか	
元亀3年	1572			上杉謙信、栗林雅頼に倉内城の備えを強化するよう命じる	栗林文書	
天正7年	1579			北条氏政、配下の軍勢で沼田城を攻め落とす	武州文書	
天正8年	1580			北条氏政、清水康英に沼田城普請の人数派遣を命じる	宮崎求馬氏所蔵文書	
天正8年	1580			倉内城を武田氏に	加沢記所収文書	
天正9年	1581		沼田城普請仕置以下、嚴重ニ可被申付	武田勝頼が真田昌幸に沼田城を普請等を命じる	32	
天正11年	1583	2月23日	本城ヲ東南ニ開、堀ヲホリ土手ヲ築、広間・書院・居間・料理ノ間・大門・裏門等ノ普請ニ打立、作事奉行祢津志摩守、材木奉行出浦対馬守、河田山・師・後閑ニテ木伐リ城着ス、石寄奉行小山田壹岐守、不動坂・奈良坂ヨリ引寄ル、石垣築奉行池田長門守タリ、大工木挽処々ニ満チ瓦焼別処ニ居ス、足輕五百人、利根・吾妻ノ百姓人足処々ノ普請場へ割渡ス	沼田城の大規模な普請を実施	33	真田昌幸
天正11年	1583	8月7日	台所棟上	台所棟上げ [㊦]	33	真田昌幸
天正11年	1583	8月18日	広間棟上	広間棟上げ [㊦]	33	真田昌幸

年号	西暦	月日	普請と作事の記事	主な出来事	第7章史料番号	備考
天正11年	1583	9月13日	大門棟上、屋敷建並へ	大門棟上げ、屋敷建設	33	真田昌幸
天正12年	1584	9月15日	移徒	転居	33	真田昌幸
天正13年	1585	2月	二・三ノ丸を構へ土手・升形ヲ築立	二の丸三の丸を構え枳形を築く	33	真田昌幸
天正13年	1585	9月	門建ツ、三ノ門建ツ	門、三の門を築く	33	真田昌幸
天正13年	1585	11月	普請成就ス		33	真田昌幸
天正16年	1588	7月	奥ノ作事、居間・書院・化粧ノ間、茶ノ間、中末ノ門・局部屋・風呂屋・湯屋、住居ノ品々迄	本多忠勝の息女を真田信之の正室に迎えるため、沼田城内に奥御殿が造営された	34	真田昌幸
天正17年	1589	7月		沼田城が真田氏より北条氏へ返還	37	
天正17年	1589	11月		猪俣邦憲、名胡桃城を奪う	39	
天正17年	1589	11月		北条氏直、大鉄砲二挺を沼田城に送り、猪俣邦憲に沼田城の守備の強化を命じる	40	
天正18年	1590	1月		北条氏政、猪俣邦憲に沼田城の普請を命じる。	43	
天正18年	1590	12月		沼田領が真田氏に返還される。	41	
慶長元年	1596	2月5日	殿守普請に打立、九間ニ拾間、五重ニ定メ、木村土佐守奉行ス、材木ノ木伐後閑・小日向、城着迄ノ奉行原郷左衛門タリ、石寄奉行小山田老岐守・羽田雅楽、久屋坂・奈良坂ヨリ引ナリ、惣石垣増築、殿守台矢沢但馬守奉行ス、足軽六百人郷人足、信州ノ百姓諸方ノ普請場ニ充メタリ	沼田城天守普請を開始	47	真田信之
慶長2年	1597	2月19日	殿守棟上		47	真田信之
慶長2年	1597	11月5日	成就ノ祝儀有リ		47	真田信之
慶長9年	1604	1月11日	沼田ノ城西ノ三階・水手門ノ普請ニ打立	西の三階櫓、水手門普請を開始	51	真田信之
慶長9年	1604	6月3日	三階棟上		51	真田信之
慶長9年	1604	7月5日	門建		51	真田信之
慶長17年	1612	2月27日	三・四ノ丸ヲ割立、土手・升形ヲ築、観音堂ノ西ニ堤ヲ拵へ惣堀ヲホリ流レニナス	三の丸、四の丸を割り立て、枳形を築く、惣堀を掘る	51	真田信之
寛永9年	1632	5月4日	表ノ三階普請ニ打立、五月四日棟上	表の三階櫓普請	51	真田信吉
万治元年	1658	1月11日	殿守三階、二・三・四ノ門修復	天守、二・三・四ノ門修復	53	真田信直(信利)
万治元年	1658	7月	本丸ノ地形、惣口(堀)、殿守修復ニ打立テリ	本丸地形、惣堀、天守修復	54	真田信直(信利)
万治3年	1660		伊賀守沼田領す、天守、櫓、石垣等破損御修復、万治三子年有増成就す、此節瀧坂ノ土を取、地形五尺余上る也	天守、櫓、石垣等修復完成、地形5尺上がる	56	真田信直(信利)
寛文8年	1668	2月	堤普請始まる	堤普請	真田氏家中役人諸事奉覚書	真田信直(信利)
寛文10年	1670	5月	本丸大御門の内側に十人番所を立つ	十人番所建設	真田氏家中役人諸事奉覚書	真田信直(信利)
延宝6年	1678	11月	城中三ヶ所の橋をかけ替(大門・三ノ門・溜門)	大門・三の門、溜門の橋を架替	真田氏家中役人諸事奉覚書	真田信直(信利)
天和元年	1681	11月		真田信直改易	57	
天和2年	1682	1月		沼田城破却	58	